

# 沼田の歴史に 奥深さを感じて

文化財や隠れた名所など沼田の歴史を紹介する広報ぬまたの連載企画「ぬまた歴史探訪」は今年で15年。これまでを金井さんと振り返るとともに、市内にある歴史の楽しみ方を提案します。

シリーズ①  
**ぬまた歴史探訪**

**銀名水 (栄町)**



沼田台地に人が住み始めたのは、沼田氏十二代万胤斎藤泰が白沢より水を引いた、享禄(1528年～)の頃といわれる。沼田の町がそれ以前、雑木林など茂る無人の丘陵であったと思つと不思議だ。そんな台地に唯一湧き出していたのが、この銀名水である。1年を通して14度程の水温。日照りでも枯れることがないという。生命の源は、時代が変わっても美しく美しい。

(沼田市文化財調査委員：金井竹徳)

**編集後記**

林業研修施設  
表紙の写真は、夏休み初日に行方施設見学会で、沼田にある林野庁林業センター見学の様子。遠隔操作で樹木の機械で、世界に「い賞重なものだ」のほか、外国製四車や日本で最新型タイプのチェーンソーの展示が展示です。大自然の中で貴重な体験に感謝

記念すべき1回目の銀名水は裏表紙に掲載(平成18年8月号)



【写真上】紙面レイアウト変更に伴い、歴史探訪をより詳しく解説(平成21年12月号)【下】紙面のオールカラー化とレイアウト刷新。地図付きで案内し、季節に応じて変化する金井さんの服装にも注目(令和2年5月号)

大水などの災害にもびくともせずに残された諏訪石(沼須町)の前で、笑顔を見せる金井さん。幼少時代の遊び場でもあったという(広報ぬまた平成19年11月号・16回に掲載)



「広報紙で1番のお気に入り」  
「実際に行ってきた」と市民から人気がある「ぬまた歴史探訪」。市文化財調査委員の金井竹徳さんが市内の歴史をくまなく紹介する毎月の連載は、今月で185回になります。

金井さんは専門学校進学で東京し、出版社に就職。写真部に所属し、社会派を中心に撮っていました。

歴史との出会いは、24歳で石像の担当として全国各地を回るようになったとき。慈愛に満ちたり素朴で豊かだったり、それぞれが持つ表情や石の心を感じながら撮るうちに惹かれていきました。